

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ゆったりとのんびり自然に、笑顔の絶えない生活を支援している。又、地域の方も気軽に立ち寄ってもらえるホームを目指したい。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	個別ケアを立てる際にも、話し合いの中で常に理念に触れられるようにしている。		時に笑顔を絶やさないように心がけている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族への便りを活用したり、地域のイベントへ参加したりしている。		町内会及び、地域の住民との交流を、より密にしていきたいと考えている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホーム周辺の利用者との散歩の機会を増やす。近隣の方との挨拶の励行を心がけている。		より気軽な声掛けを心がけていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	回覧板の案内で、町内行事の確認できるだけ参加するようにしている。		お祭りや、盆踊り、又、イベントホールでの音楽会等参加している。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域主催の研修会があれば、参加の機会を設け、又、気軽に声掛けをして、遊びに来て頂けるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、及び外部評価によって、気づきや、また指摘された事について、皆で話し合い改善に取り組んでいる。		取り組みから実際の実現へと行動する事が大事だと思っている。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	支援センター及び、町内会の方達の率直な意見を聞き参考にしている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村の担当者を気軽に相談できる体制を整えている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	カンファレンスの中で、時々話題として話し合い、実際活用する利用者が出た場合は、支援する用意がある。		より深い知識を身につけたいと思っている。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	基本的に、身体不拘束の方針で、日常業務を行い、虐待防止について、日々の打ち合わせの中でも取り上げている。		ある程度の専門的な法律の知識を身に付けたいと思っている。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約あるいは、解約の場合は、利用者や家族には十分説明し、理解を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>気軽に話をできる関係ができていますので、要望や意見、不満等日常的に聞くことができます。また、第三者機関への苦情相談等も掲示しいてる。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>しらかば新聞の発行他、小口金銭の明細等で報告している。</p>		<p>しらかば便りについては、もっとうまく作れないか検討しているところである。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>廊下に苦情相談を掲示し、第三者窓口も掲示している。又、気軽に相談できる雰囲気をつくっている。面会時でもできるだけコミュニケーションをとるよう心がけている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営者並びに、管理者、職員は信頼関係の下で気軽に意見を言い合える関係になっている。</p>		<p>運営者、管理者、職員が一緒に研修や、意見交換等の場を増やしていきたい。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>予め予定が決まっていることはもちろん、そうでない場合でも、必要に応じて柔軟に対応できるよう体制を整えている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>運営者は、異動や離職をできるだけ抑えるよう常にコミュニケーションを取りながら運営し、又、代わる場合は、分かりやすく説明するなどして利用者への影響をできるだけ抑えるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>ホーム内での研修はもちろん、外部への研修等も内容をよく吟味し、それに合わせて段階的に職員を研修に参加させている。</p>	<p>月一度の会議時には、テーマを決めて勉強会を行っている。これからもスキルアップの為、研修会に参加している体制を整えたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>区のグループホーム間の交流を含め、他の区とのグループホームとの交流の機会を持っている。</p>	<p>他グループホームとの合同研修会等に取り組んでいきたいと思っている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>気軽に相談、悩み事に応えられるようにしている。</p>	<p>職員は気軽に有給等をとれる環境を整えている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務状態を把握し、各自が向上心をもって働けるように、研修等に参加できるように努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>今までの本人の環境等を踏まえ、直接本人から十分時間をとって話を聞くよう心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>じっくりと時間をかけ、家族から率直な意見を引き出せるよう心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	よく話を聞き、なるべく多くの職員の意見等も聞いて、本人並びに家族に何が必要なのか検討するようにしている。		より極め細やかな対応ができるよう取組んでいきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	まず、ホームの空気を感じてもらい、少しづつ慣れてもらい、他の利用者とのコミュニケーションを図りながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者と喜びや悲しみを共有し、支援する側、される側という意識は持たず、共に支えあう信頼関係を築いている。		日常業務の中で、何気ない会話等、自然な形で利用者とコミュニケーションを図りたいと感じている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	グループホームの役割として、利用者と共に生きるという事を考えながら支援している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人並びに、家族とよく話し合い、その関係を理解し、ホームとしてなすべきことを見極めながら支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希望により、知り合いや、懐かしい場所とかへでかけていく機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常にホームの空気を読み取り、又、気遣い、孤立してないか注意している。		一度関係がこじれると、中々修復が難しい場合がある。常にそうならないよう、気遣っていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後も、家族から相談を受けたり、話をしたりコミュニケーションをとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中での確認と、何気にもらす本当の気持ちを親身になって聞く。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人並びに、家族から十分時間をとって、できるだけ細かく話を聞くようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できるだけ本人の希望にそって、自由に又、能力に応じて1日を過ごしてもらうよう支援している。		できれば1日の中で、職員がうまく関わって、リハビリ等に取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は、本人、家族の意見、要望などを十分取り入れ、ケアマネージャーや職員全員で協議を重ね、ここの心身の状況と生活能力を考慮し、意向を確かめた上で作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期の介護計画の見直しのほか、細かくモニタリングを行い、現状に即してケアプランを作成するよう取り組んでいる。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	定期的なモニタリングや、又、日々の送りや打ち合わせの中で、個人個人の情報を共有し、気づきや意見を出し合っている。		一人ひとりの利用者に対して、更なるきめ細やかな理解をし、的確な判断が出来るよう取り組みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の希望や状況に応じて、通院介助や、送迎等、臨機応変にサービス提供できるよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通して、町内の副支部長や、民生委員に参加してもらい、意見交換している。		警察、消防署等、協力関係を築いていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望や、また必要性に応じて、他のケアマネやサービス事業者との話し合いにも対応できる用意がある。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の希望や必要性に応じて、支援センターと相談したり、成年後見制度についても支援する用意がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	契約医院による定期的な往診と、週1度の訪問看護師によるバイタルチェックが行われ、利用者の健康管理を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医院の医師の紹介で、必要な医療機関や、認知症の専門医の治療を受けられるよう支援している。		職員一人ひとりが、より認知症に対する理解を深められるよう、研修等を充実させていきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所内で看護職員は置いていないが、医療連携による看護師が24時間体制で対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した時には、できるだけ面会に行き、その都度、病院関係者と連絡をとり、早期退院に向け努力している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化、終末期については、利用者の状態や状況の変化に応じて、医師、家族と相談を行い検討するようにしている。		主治医と家族と、ホームとの連携体制を、より充実したものにしていきたいと思っている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医の意見の下、家族の理解を得、ホーム内で、出来ること、出来ないことを見極め、職員同士の共通の意識をもち、本人の不安をできるだけ取り除くよう努力している。		ホームとして、全体のケアの質を上げ、重度化や、終末期にも冷静に対応できるような体制作りに取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	関係者と十分な話し合いをもち、本人にとって何が一番不安かを見極め、取り扱うよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとり誇りを損ねる事のないように、日頃から言動に配慮し、個人情報保護の為、書類などの管理も注意している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	分かりやすい言葉で説明し、出来るだけ自分で決めてもらい、出来ないところを支援していくよう心がけている。		うまく言葉で表現できない利用者に対して、その表情から理解できるように職員間で話し合っていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活ペースを尊重している。買い物や外出の希望についても、できるだけ希望に応じられるようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望があれば、一緒に出かけている。又、時々オシャレ等も手助けしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	本人に出来ることがあれば、準備や後片付けに参加してもらっている。職員と利用者は同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるような雰囲気作りを大切にしている。		利用者の好みは理解して、できるだけ意向に沿った献立を作成しているが、十分とはいえない時もある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望により、一緒に買い物に行き満足するよう対応している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	必要時以外、極力おむつはしないようにしている。一人ひとり状況に合わせて対応している。		おむつが必要な利用者でも、徐々にしなくてもいいように対応していきたいと思っている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調に考慮しながら、本人の希望に沿うように入浴してもらっている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	1日の過ごし方は本人の自由にしてもらっている。どこにいても安心していられるよう配慮している。		利用者同士のコミュニケーション等に、職員がより一層配慮するよう取組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の生活暦や、身体状況を踏まえて、できるだけ役割をもってもらい、得意な事を探しだし、支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの状態に応じて、お金は自由に使えるようにして、大切さを知ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来るだけ本人の希望に沿うよう、一人、あるいは2,3人での外出に対応している。		時々遠出の希望にも対応していきたいと思っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物園やその他希望があれば、普段行けないような所へも行くよう対応している。		家族の参加があまり多くないので、細かく呼びかけをし、一人でも多く参加してもらえるよう取組んでいきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人から希望があれば、ホーム内から電話で家族への取次ぎをしたり、手紙のやり取り等支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に面会に来てもらえるよう、アットホームな雰囲気を保つように気をつけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日常業務の中で、身体不拘束について、送りや、打ち合わせの中で話し合っている。		細かな基準について、まだ全員の理解が不足していると思うので、研修や勉強会等で取組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関等は、日中は開放しており、気軽に訪問したり、出かけたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、それぞれ自由に過ごしてもらいながら、職員はそれぞれ注意しながら見守り、夜は定期的に居室を見回り、安全に配慮している。		職員全員が、より細かな配慮ができるよう徹底していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	昼と夜の置き場所を変えたり、利用者によってわかりやすく説明して、理解してもらったりしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月1度のカンファレンスや、日常的な打ち合わせの中で確認している。		利用者一人ひとりのより細かな理解をそ、転倒等、事故のないよう徹底していきたい。
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命講習を受けたり、日常的な打ち合わせの中で、申し送り等により繰り返し勉強している。		利用者の急変時等、まだ不安があるので、より理解を深めていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な避難訓練の他、打ち合わせなどで議題にしている。		地域との交流を深め、災害時には、協力が得られるよう働きかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ケアプラン説明時や、面会時等、家族に自由にのんびり暮らして頂くよう説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>異変が見られた場合には、職員同士が連絡を取り合い、24時間対応の医師と連携をとり、適切に対応している。</p>	<p>細かな異変にも気づくことが出来るよう、利用者一人ひとりの体調等理解していきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>日々、打ち合わせや送り等で、一人ひとりの服用している薬について、その用法や副作用等について理解している。</p>	<p>薬の知識について、より一層深く理解できるよう取り組んでいきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘の重大さを理解し、予防やまたその対応について医師の意見を聞いたりして対応している。</p>	<p>便秘の薬の種類や、対応が遅れた場合等について、より深い知識を身に付けたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、歯磨きの徹底と、一人ひとり、状態に応じて対応し、または医者へ付き添っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの状態に応じて、食事の量や、時には、内容等も変更し、水分は各自十分とるよう気をつけている。</p>	<p>好き嫌いのある利用者について、職員間でより話し合いを持ち、適切に対応していきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症のマニュアルがあり、日々送りや打ち合わせの中で繰り返し勉強している。</p>	<p>新しい感染症について、職員間で徹底していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所、調理用具等は、常に清潔にし、食材は新鮮な物を使うよう心がけている。</p>		<p>食中毒等についてのホーム内での職員研修をもっと徹底していきたい。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先は、なるべく広く、あまり物を置かないよう気をつけ、季節の花等を小さな花壇ではあるが植えている。又、鉢植え等も置いて、親しみやすく、入りやすいよう工夫している。</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は、できるだけ広く使えるよう工夫し、居間、食堂等は明るく日中は太陽の光が射し、季節の花等を置いて、ゆったりとした感じとなっている。</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂、居間のほかに、1階のリハビリ用の平行棒があり、そこには、テーブルや椅子、ソファ等が置いてあり、一人、あるいは気の合った者同士で語らう場がある。</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室そのものがあまり広くないので、できるだけ広く使えるよう工夫し、馴染みの物を置くよう配慮している。</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>こまめに湿度計をチェックしたり、窓の開閉等に配慮している。</p>		<p>利用者一人ひとりの体調など、差があるので、より一層細かな配慮をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>鉢植えや野木作りなど、なるべく全員で喜びを共有できるようにしていきたい。</p>

サービスの実績に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない	外出の好きな利用者、そうでない利用者、無理強いをせず、できるだけ希望に沿うよう、一人ひとりの思いを組み入れて支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	一緒にテレビを見ながら、昔の話をしたり、また、歌を歌ってもらったり、冗談を言い合ったり、そういう時間を作っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	部屋で寛ぐ人、外出する人、のんびりテレビを見る人塗り絵をする人、思い思いの1日を過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	何日には買い物に出かけようとか、どこへどこへ見学に行こうとか、一人ひとりの予定を計画し、それを楽しみにしている様子が伺える。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	何日か前から予定したり、また、当日に天気が良かったりした場合には、買い物や、散歩など、臨機応変に対応している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	月2回の往診や、週1回の看護師の訪問等、また、24時間の医師の対応等、不安なく生活している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	24時間対応の医療連携により、また、医師の病院紹介等により、その時々状況に、柔軟な支援ができています。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない	ケアプラン作成時や、面会時、じっくりと時間をとり、家族とコミュニケーションをとっており、希望、意見等を十分聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	近所の有料老人ホームの入居者が時々遊びにきてくれるが、町内会の人達ももっと気軽に来てもらえるよう働きかけていきたい。

サービスの実績に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	町内会を通して、祭りの参加や、グループホームについて、町内会の集まり等で説明しておられると聞いているが、まだまだ働きかけが足りていないと思っている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	仕事について、やりがいや、はりを感じながら働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	日中の居間でのほのぼのとした顔や、全体的にアットホームな雰囲気の中で、おおむね満足していると感じられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	外部評価のアンケート等からも、おおむね満足していると感じられる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

極め細やかな、一人ひとりの希望に沿ったサービスを提供したいと思っているが、少人数の共同生活の中では、最低限守らなければならないルールがあり、そのぎりぎりのところでの狭間で悩むこともある。基本的にはグループホームしらかばに入って良かった、入れて良かった、と言われるホームを目指していきたい。